

■お詫びと訂正

書籍『夜勤リーダーのためのフローチャートで判断できる！状況別の実践対応 BOOK』におきまして、下記の誤りがございました。

著者および読者のみなさまに謹んでお詫び申し上げるとともに、以下に訂正いたします。

該当箇所

p.192「一般急性期病院の夜勤者のための便秘時の薬剤選択フロー」内

【誤】

➡腸を動かす薬（蠕動運動を促したい）

刺激性下剤：大腸のぜん動運動を促進する。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
- センノシド（プルゼニド[®]） - ピサコジル座薬（テレミンソフト[®]） - ピコスルファート	内服： 6～12時間 座薬： 15～60分 洗腸： 5～15分	腹痛、下痢、腹部不快感、長期連用で耐性・依存性

上皮機能変容薬：腸管上皮からのCl分泌を促し腸管内水分を増加

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
ルビプロストン（アミティーザ[®]）	内服： 24～48時間	下痢、腹痛、悪心

➡水分を集めて便をやわらかくする薬

浸透圧性下剤：便に水分を集めてやわらかくする。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
- 酸化マグネシウム（マグミット[®]） - ラクソロース（モニラック[®]） - ポリエチレングリコール（モビコール[®]）	内服： 24～48時間	下痢、腹部膨満、電解質異常（高Mg血症に注意）

高張性下剤：腸管内の浸透圧を上げ水分を増加させる。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
クエン酸マグネシウム（マグコロール[®]）	内服： 6～12時間	下痢、腹痛、高Mg血症

➡硬い便をやわらかくする薬

便軟化薬：便表面の水分・脂質を増やし硬い便をやわらかくする。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
- ドクサート - ビーズワックス（ソルビフェン[®]）	内服： 24～72時間	下痢、口渇

➡潤滑・排出を助ける薬（すべりをよくする）

潤滑性下剤：腸管内の水分蒸発を防ぎ便の移動をスムーズにする。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
流動パラフィン（オイルD）	内服： 24～48時間	下痢、悪心、誤嚥性肺炎に注意

【正】

➡便に水分を集めて便をやわらかくする薬

浸透圧性下剤：便に水分を集めてやわらかくする。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
- 酸化マグネシウム - ポリエチレングリコール（モビコール[®]）	内服： 24～48時間	下痢、腹部膨満、電解質異常（酸化マグネシウムは高Mg血症に注意）など

➡腸を動かす薬

刺激性下剤：大腸の蠕動運動を促進する。

代表的な薬剤	特徴・適応	副作用など
- センナ・センノシド（アローゼン[®]・プルゼニド[®]など） - ピコスルファート水和物（ラキシベロン[®]）	内服： 6～12時間	腹痛、下痢、腹部不快感、長期連用で耐性・依存性

<下記は慢性便秘症に使用するため、日中に医師へ提案する>

上皮機能変容薬：腸液を増やして便を軟らかくする。

- リナクロチド（リンゼス[®]）

副作用：下痢、腹痛、腹部膨満など

上皮機能変容薬：腸管への水分分泌を増やす。

- ルビプロストン（アミティーザ[®]）

副作用：悪心、下痢、腹痛、腹部膨満など

胆汁酸トランスポーター阻害薬：胆汁酸を大腸に増やして排便を促す。

- エロピキシパット（ゲーフィス[®]）

副作用：腹痛、下痢、腹部膨満など